

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成24年度病虫害発生予察速報第1号について

このことについて、病虫害発生予察速報第1号（麦類、赤かび病）を発表したので送付します。

今年は冬季の気温が低く経過したこともあり、麦類の生育はやや遅いとされています。これにともない、防除時期も平年より遅くなりますので、注意をお願いします。

速報第1号

麦類

1 対象作物：小麦、二条大麦

2 病虫害名：赤かび病

3 発生地域：県下全域

4 発生時期：平年より遅い

5 発生量：平年並

6 速報の根拠

(1) 本年における麦類の出穂期は、前年並で、平年より5～6日遅く、4月13日～16日頃と予想されている（第1表）。

(2) 福岡管区気象台の1か月予報（4月6日発表）によると、向こう1か月の降水量は平年並が40%で少ないまたは多い確率ともに30%です。気温は4月14日～4月20日は、平年並または高い確率ともに40%、4月21日～5月4日は高い確率が40%、低いまたは平年並の確立が30%とされている。なお、平年並の気温は、4月14日～4月20日が14.5℃、4月21日～5月4日は16.4℃である。

(3) 赤かび病多発生年は、麦の出穂期以降の平均気温が18～20℃を超え、湿度が80%以上の日が3日以上続く場合、降雨または濃霧頻度が高い（日照時間が少ない）場合であり（「発生予察事業の調査実施基準」）、前記の1か月予報によると本年は多発生条件ではないと考えられる。

7 防除上注意すべき事項

(1) 本年における麦類の出穂期は、平年より5～6日遅いと予想されており（第1表）、

防除適期も平年より遅くなるので注意する。なお、出穂期は、播種日、品種及び今後の気温の変動等によりほ場ごとに異なるので、その把握に努める。

- (2) 小麦の防除適期は開花期（出穂期後7～10日頃）である。 なお、1回目の防除を実施後、降雨が続く場合はその7～10日後に2回目の防除を行う。
- (3) 二条大麦の防除適期は、穂揃期の約10日後（出穂期後12～14日、葍殻が抽出し始める頃）である。この時期は収穫までの日数が短いので、薬剤の選定に当たっては、収穫前規制に注意する。
- (4) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果が低下するので、降雨情報に注意する。なお、薬剤散布後に降雨があり、再度散布すると散布回数は2回とカウントされるので注意する。
- (5) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる薬剤が多いので注意する。また、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。

第1表 農業総合試験場における麦類の出穂期および防除適期

麦種	品種名	播種期	予想出穂期	同左平年差	同左前年差	調査地	防除適期
小麦	シロガネコムギ	11/18	4/13	+5	±0	大木町	4/20～ 4/23
	チクゴイズミ	11/17	4/16	+5	-1	筑紫野市	4/23～ 4/26
	ちくしW2号	11/18	4/13	+6	+1	大木町	4/20～ 4/23
		11/17	4/15	+3	-1	筑紫野市	4/22～ 4/25
大麦	ほうしゅん	11/25	4/15	+5	±0	筑紫野市	4/27～ 4/29
	しゅんれい	11/25	4/16	+2	±0	筑紫野市	4/28～ 4/30
	はるしずく	11/25	4/14	+6	±0	大木町	4/26～ 4/28

注1) 平年値はH12～H22年播の平均値。

注2) この値は暫定値で、今後変更されることがある。

注3) 前年比（差）、平年比（差）：草丈および莖数は前年比および平年比、出芽期および葉数は前年差および平年差を示す。

注4) 予想出穂期は今後の気温が平年並で推移した場合の出穂期。過去の播種期および出芽期から出穂期までの積算温度とこれまでの積算温度および麦の生育状況から設定した。

8 その他

麦類の検査規格では、食用麦の赤かび病被害粒の混入限度は0.0%である（赤かび病被害粒が0.05%以上混入しているものは規格外となる）。また、小麦穀粒に含まれるかび毒（DON）の暫定基準値は1.1ppmで、この値を超える小麦は流通できない。